動詞～て形の変化における誤用分析
―ジョグジャカルタムハマディヤ大学日本語教育学科の一年学習者に対する記述的研究―

カルマン・パラシド

20130830014

要旨

動詞は日本語学習者にとって大切なことである。日本語の動詞は様々な形に変化することなっている。「～て形」がその一つである。その「～て形」の変化が種類によって変わる。その種類は問題の一つであり、特に五段動詞である。五段動詞の言葉の最後は色々な形があるからである。本研究の問題設定は二つに分けられ、一つ目は 2016/2017 年度一年生ジョグジャカルタムハマディヤ大学日本語教育学科学生における動詞「～て形」の変化の誤用の種類がどうであるか、二つ目はその動詞「～て形」の変化の誤用の原因は何かと言える。

本研究はコンビネーションアプローチを使用する。最初は量的なアプローチを使用する。それから質的という方法を行う。研究のデータの収集技法は二つあり、テストと非テストである。テスト問題でサンプルの動詞「～て形」の変化の誤用の種類を探す。非テストはアンケートであり、アンケートで誤用の原因を探す。本研究のサンプルは２６人の 2016/2017 年度一年生ジョグジャカルタムハマディヤ大学日本語教育学科学生である。

テストの結果にもとづいて、動詞「～て形」の変化の誤用の種類は五つであり、文字を書き間違える、文字を書き入れすぎる、促音があなし、促音の位置が間違える、答えないということである。それから、アンケートの結果は誤用の原因から表れた誤用のタイプが三つある、一つ目は incomplete application rules, 二つ目 false of concepts hypothesized, 三つ目 Ignore of Rule Restrictions である。この三つの中で一番多い原因は Ignore of Rule Restrictions である。

キーワード　：誤用分析、動詞、動詞の変化、～て形

1. 序論

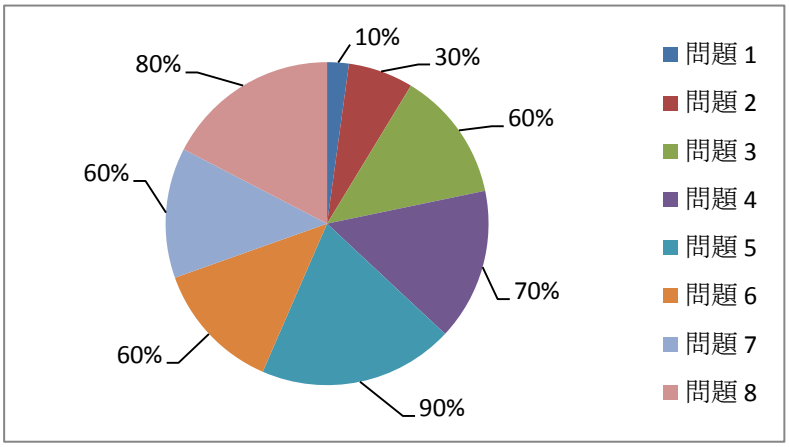
動詞は日本語学習者にとって、大切なことである。Sutedi (2008: 48) によると　日本語の動詞は三種類（さんしゅるい）であり、一番目は五段動詞と言う。五段動詞の特徴（とくちょう）は言葉の後ろに「う」、「つ」、「る」、「ぶ」、「ぬ」、「む」、「く」、「ぐ」、「す」と言う字がつくことである。二番目は一段動詞と言う、一段動詞の特徴は最後の言葉の文字に「いーる、えーる」と言う発音する字がついていることである。三番目は変格動詞と言う、変格動詞二つで「くる、する」である。

日本語の動詞は様々な形がある。例えば、「～ます形」や「～ません形」や「～た形」や「～ませんでした形」や「～ましょう形」や「～て形」などである。本研究には「～てけい」の変化について研究する。

研究する前に、ジョグジャカルタムハマディヤ大学の一年生の日本語学習者の能力を知るために、調査を行う。十人の日本語学習者に八の問題をあげ、その調査のけっかは次のようである。

表 1.1

間違い答えのパーセント



筆者は選択式を八問い作成し、十人のサンプルに挙げた。表 1.1 の結果は次のように説明する。問一は「会います」の変化が十人から一人だけ間違い、問二は「言います」の変化が三人間違い、問三は「切ります」の変化が四人間違い、問四は「取ります」の変化が七人間違い。問五は「限ります」の変化が九人間違い、問六は「帰ります」の変化が六人間違い、問七は「着きます」の変化が六人間違い、問八は「脱ぎます」の変化が八人間違い。結果を見ると、六名のサンプルから全員正解なし。学習者は動詞がしっているのだが、動詞の変化を書くと、分からない学習者が多いと言うことが分かった。

本研究の問題設定は二つに分けられ、一つ目は 2016/2017 年度の*ジョグジャカルタムハマディヤ*大学日本語教育学科の一年生における動詞「～て形」の変化の誤用の種類がどうであるか、二つ目はその動詞「～て形」の動詞の変化の誤用の原因は何かと言うことである。

上の研究の問題設定の上で、本研究の目的が二つある。一つ目は 2016/2017 年度一年生ジョグジャカルタムハマディヤ大学日本語教育学科学生における動詞「～て形」に表せるの誤用の種類を探すことである。二つ目はその動詞「～て形」の変化の誤用の原因を知ることである。

本研究の意義は二つに分け、理論的な意義と実用的な意義である。理論的として、三つにわける。一つ目は研究者にこの研究の結果は新しい眼識になり、特に日本語の動詞「～て形」の変化ことである。二つ目は日本語ではこの研究の結果は眼識と学識を増えることができる。特に日本語の動詞「～て形」の変化ことである。この研究の結果から学習者の誤用の種類分かる。その間違いから新しい教える方を作る、それから学習者の間違いを緩和することができる。三つ目は日本語の動詞「～て形」の変化の教える参考になり、特に表現文型である。実用的な意義として、学習者の日本語の動詞「～て形」の変化の誤用の

種類と誤用の原因が分かる。それから効果的な教える方法を作ることができる。

2. 本論

本研究はコンビネーションのアプローチを使う。最初は量的なアプローチを使用する。それから質的という方法を行う。Creswell（２００９）　まず量的なアプローチでデータを集め、分析し、量的なデータを強めるため、質的なデータを集め、それから分析する。

このアプローチはまず一番目の問題設定を探すため、量的な方法で学習者にテストをあげ、それから学習者の動詞「～て形」の変化の誤用の種類がどうであるかを分析する。そして、二番目の問題を探すため、質的な方法で学習者にアンケートをあげ、アンケートの結果から誤用の原因を分析する。

一番目の問題設定と二番目の問題設定に答えるため、このアプローチと方法を使う。それは動詞の変化の誤用の種類とその誤用の原因であり、特にジョグジャカルタムハディヤ大学日本語教育学科の学生。

本研究の対象は２７人の 2016/2017 年度一年生ジョグジャカルタムハマディヤ大学日本語教育学科学生であり、それからサンプルは２６人の 2016/2017 年度一年生ジョグジャカルタムハマディヤ大学日本語教育学科学生である。

研究のデータを収集技法は二つあり、テストと非テスト。テスト問題でサンプルの動詞「～て形」の変化の誤用の種類を探す。非テストはアンケートであり、アンケートで誤用の原因を探す。

研究の調査方法は二つある。テストと非テストであり、このテスト問題とアンケートは 2016/2017 年度一年生ジョグジャカルタムハマディヤ大学日本語教育学科の学生あげる。

a. テストの結果を分析する、分析の方法はこのような分析する。

1) サンプルの政界と間違える答えを分析する。
2) 問題の間違うのパーセンテージを計算する。
3) 大きいの間違うと小さいの間違うのパーセンテージによると等位を作る。

正しい答えと間違う答えの周波数とパーセンテージを計算する定式は：

$$p = \frac{f}{x} \times 100\%$$

p = パーセンテージ

f = 頻度

x = サンプル

4) 間違うの周波数とパーセンテージの表を作る。
5) サンプルの間違う答えと正しい答えを分類(ぶんるい)する。

b. アンケートの結果を分析する、分析方法は：

1) アンケートの結果を分析する。
2) アンケートの答えの結果を分類する。
3) 誤用種類と間違うの原因の親類を調べる。

c. 「～て形」の動詞の変化の誤用種類と間違うの原因の親類を調べるため、テストの結果とアンケートの結果を分析する。

表３.１０

誤用のランキング

ランキング	問題	問題	パーセンテージ
1	入ります	入ります	46%
2	脱ぎます	脱ぎます	42%
3	直します	直します	38%
4	吹きます	吹きます	35%
5	言います	言います	31%
6	転びます	転びます	31%
7	死にます	死にます	23%
8	打ちいます	打ちます	23%
9	止みます	止みます	19%

上記データにもとづき、最も誤用が多いのは問８の問題「入ります」であり、46%である。その一方、誤用が少なかったのは六番の問題「止みます」、19%と言うことが分かる。テストの結果を見ると、二つの問題設定を答えた。

a. 動詞「～て形」の変化の誤用の形から表れる誤用のタイプは五つである。

表３.１０

誤用の種類

タイプ	誤用の種類	例えば
1	文字を書き間違える	いいて、ころべて
2	文字を書き入れすぎる	ころぶんで、しぬんで
3	促音がなし	いて、はいて

タイプ	誤用の種類	例えば
4	促音の位置が間違える	なおしって、ぬいって
5	答えない	-

b. 「～て形」の動詞変化の誤用の原因から表れる誤用のタイプは三つである。

1) Incomplete Application of Rules

この間違いは全ての問題に表れる。サンプルは～て形の動詞の変化がまだ分からないから、問題に答え間違える。

2) Ignore of Rule Restrictions

この間違いは１，２，３，５，６，７，８，９の問題に表れる。サンプルは～て形の動詞の変化が分かるが、問題の答えを間違っている。サンプルはその答えは正しいと思う。

3) False of Concepts Hypothesized

この間違いは全ての問題に表れる。サンプルは～て形の動詞の変化がまだ分からないから、問題に答え間違える。

3. 結論

本研究には問題設定を二つにわけ、一つ目は 2016/2017 年度の *ジョグジャカルタムハマディヤ*大学日本語教育学科の一年生における「～て形」動詞の変化の誤用種類がどうであるかということである。それから、テストの結果を見ると、誤用種類は五つであり、文字を書き間違える、文字を書き入れすぎる、促音がなし、促音の位置が間違える、答えない。

二つ目はその「～て形」の動詞の変化誤用の原因は何かということである。それから、アンケートの結果は誤用の原因から表れた誤用のタイプが三つある。それは incomplete application rules, false of

concepts hypothesized, Ignore of Rule Restrictions。この三つの中で一番多い原因は Ignore of Rule Restrictions である。